

雑木林ファンクラブ 通信

住所: 〒247-0013 横浜市栄区上郷町 1562-1 「横浜自然観察の森」 Tel:045-894-7474

東北地方太平洋沖地震で被災された方に謹んでお見舞い申し上げます。

炭焼き窯

私は平成11年6月に入会しました。

入会のきっかけは、腰の手術をしたので毎日2～3時間歩いている時でした。炭小屋の前に来た時に立ち寄り、作業をしているのを見て私でも出来るなと思い入会しました。

入会した時の本窯は現在リヤカーの置いてある場所で奥行き2米、幅90cm、深さ90cmの上蓋式で、当時は炭焼き準備に15～16名全員でやりました。炭材はトウネズミモチで、前に切っておいた材を当日長さ70cm、20kg/1束を30束600kgと敷木・上げ木を作り、窯詰め。窯は地面より30～40cm低くなっており、ひんやりしていました。

敷木をしいて炭材は立ててすき間をなくすため、束ねたくずのつるを取り出し、そのすき間にバラを入れて、その上に上げ木をのせて、鉄板で蓋をする。窯と鉄板のすき間をなくすため土をふるい水で練ったダンゴを50個位作り、それで鉄板のすき間をふさぎ、温度計(水銀ガラス棒 長さ1米)をセットして、鉄板の上に土を厚さ20cm位まで載せるのに4～5名でやりました。鉄板は長さ1米、幅50cm、厚さ3mm、4枚で、両側アングルで溶接してそらないようにしてありました。

土を載せ終わったら、焚口用の薪を作って準備完了。次の週に点火。

最初にお祈りをして、8時に炭焼き開始。薪を燃やし窯の中に風を送るのにウチワで扇ぐ。普通のウチワでは熱風が中に入らないので、お祭り用の40cm位の大きなウチワで6～7時間交替で温度が上がるまで続けた。風向きの悪い時は大変でした。

煙突の温度測定は水銀(300℃)温度計で煙突の出口に差し込んで見る。夜は懐中電灯使用で、煙と臭いで水銀温度計だからとても見つらなかったです。

臭いが身体中にしみこみ、家に帰ると衣類を外で脱いで、風呂場直行でした。バスで帰る人は廻りの人がいやな顔をしていたそうです。

それで、なんとかならないかと扇風機(掃除機改良)とデジタル温度計を使用することにより臭いの付くのが少なくなりました。炭窯は湿気があるので、温度を上げるにも時間がかかるので、地上と同じ高さに新しく窯を作ったらという話が出て、新しく作る事にしました。

さて、どのように作ったらよいか、センターにある炭焼きの本(岸本定吉)を見て、窯の設計図は出来たが材料は? 枠組みは旧窯のコンクリートをそのまま使う事にしたが、耐火セメント2kg/1袋500円では(予算がない)とても使えないと思っていた所、S氏がセメントに石灰(左官屋さんが使う石灰)を混合すると耐火セメントのかわりになると聞いて石灰を使用する事にしました。配合はセメント1:1石灰、それに砂・砂利・鉄筋・荒木田土等でした。

2002年10月窯作り開始、旧窯のコンクリート10cm角の60cm長さの物を掘り起こし、10数名以上の方の協力で、週3回特別出勤で、水・金・土曜日で、大きさ120cmの円周、高さ120cm、焚口と煙道口を取り付けて積み上げていく作業です。この工程の写真は炭小屋にあります。アルバムにまとめてあります。参考にしてください。

皆さんのおかげで2002年12月2日に完成しました。ありがとうございました。

木酢液は、旧窯は煙突5本でしたが、長くすると液が多く取れると云うので10本、もっと長く追加10本で現在20本です。旧窯は10ℓ位でしたが現在は50ℓ位取れています。ドラム窯は私が入会してから2回取り替えて、今3回目です。順調に良い炭が焼けています。左側より右側は2～3時間位長くかかります。10～15時間で終わります。本酢液も約4ℓ/1窯位取れます。

旧窯で一度だけ13年3月に48時間行った事があります。炭化する時間を長くすればカタイ炭が出来ると云う事で、金曜日13時点火して、土曜日、日曜日の13時終了で48時間。炭材はトウネズミモチ、出炭量は74kg、収炭率11%と日誌に書いてありました。その炭は炭小屋に1箱残っています。カタイ良い炭です。

都筑中央公園里山倶楽部に炭焼きを見に行った所、昨夜調整がうまく行かなかったので温度が上がって終わってしまったとの事でした。よる10時以降は無人だそうです。民家が近いので無煙装置がしてありました。

本郷台駅近くの小菅ヶ谷町で、三橋さんと言う方が竹炭を焼いていると聞いて行って来ました。竹炭3日間、48時間行うと言っていました。温度計は無しで、煙の色を見て、昼も夜も無人で調節だけでした。後日、出した炭を見たら良い炭が焼けていました。窯の大きさは炭小屋の本窯と同じ位で、煙突は直接つないで長さ15本位で、竹酢液は静置法で6ヶ月~1年位おくそうです。オレンジ色で透明な竹酢液でした

佐藤 栄一

1. 2~3月の活動報告

- ① 2月12日(土)雪 10名 炭材詰め、炭小屋整備
- ② 2月19日(土)曇 19名 ミズキ(池の上斜面)間伐②、トウネズ間伐、炭焼き(本窯・ドラム缶窯)、スプリングフェア(SF)準備
- ③ 2月20日(日)曇 8名 炭焼き
- ④ 2月26日(土)晴 20名 トウネズ切株処理、製材、SF準備
- ⑤ 3月5日(土)晴 25名 クヌギ林下草刈り、竹林整備、炭出し(本窯)、SF準備
- ⑥ 3月12日(土)~19日(土) 震災の余震等のため休止
- ⑦ 各水曜日 準活動日として木工作業等を実施



今回の炭はこんな感じでした。なかなかの出来映えです

2. 4月度活動予定(細部は当日決めます)

- ① 4月2日(土) 竹林整備(主に倒した竹の後処理)、SF準備 ※チェーンソー使用不可
味噌汁当番:未定
- ② 4月9日(土) トウネズ除伐、SF準備、総会・運営会 同:未定
- ③ 4月16日(土)・17日(日) スプリングフェア(横浜公園)
- ④ 4月23日(土) 製材、竹林整備、クヌギ林管理作業、炭小屋整理、道具手入 同:未定
- ⑤ 4月30日(土) 準活動日(第5週)
- ⑥ 毎水曜日:準活動日

3. 編集後記

- ① 東北地方太平洋沖地震の影響が様々なところで起きています。我々ZFCにとっても例外ではありませんでした。ボランティアグループとして、この災害に何が出来るのか考えてしまいます。
- ② 巻頭コラムは佐藤栄一さんです。ZFCの炭焼き窯の変遷についてよく判りました。当初のやり方はたたら製鉄で使われる炭を焼く日本古来のものでしょうか(間違っていたらすみません)。今でも炭焼きに携わるとびっくりされるほど臭くなりますが、かつてはもっと臭くなるようなやり方だったようですね。この記事を読んでみるとまだまだ工夫次第で様々な炭が焼けそうな気がしてきました。素人の私が言うのもおこがましいのですが、ドラム缶窯に可能性が残されているように思えてきました(今でも、右と左で特性が違いますから、ちょっとした工夫で変化を起こせそうな…)。
- ③ ボランティア保険の内容が大きく変わります(神奈川県青少年協会が廃止になるため)。チェーンソーを使った活動が大幅に制限され、保障額内容が低下します。製材と間伐を同日に行うのは難しくなります。詳細は4月以降にお伝えします(チェーンソーに関わる保険加入が4月4日以降になるため)。また、これまで友の会でボラ保険に加入されていれば、他ボランティアグループや個人で活動されて災害を蒙った場合も保障されましたが、2011年度からは友の会の活動範囲のみが適用となります。ですから、友の会以外でボランティアをされている方はご注意ください(年420円ですのでボラ保険の加入をお奨めします。ただし社会福祉協議会に申請が必要になります)。

以上